

Asset
ManagementGS グローバル・
マーケット・ストラテジー
(野村SMA向け)

償還日(2015年10月15日)		第21期	
償還価額	7,142.50円	騰落率	-0.27%
純資産総額	0.7百万円	分配金合計	0円

(注)騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注)「GS グローバル・マーケット・ストラテジー」はゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社の登録商標です。

追加型投信／内外／資産複合／
特殊型(絶対収益追求型)

■本ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型(絶対収益追求型)
信託期間	信託期間は2005年9月30日～2015年10月15日(繰上償還日)までです。
運用方針	計量モデルにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせ、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。
主要投資対象	
本ファンド	GSグローバル・マーケット・ストラテジー・マザーファンドの受益証券
GSグローバル・マーケット・ストラテジー・マザーファンド	日本を含む世界の株式・債券および円短期金融商品
運用方法・組入制限	①原則としてマザーファンドの受益証券に投資を行います。 ②本ファンド及びマザーファンドにおける組入制限は下記のとおりです。 ・株式への投資割合には制限を設けません。 ・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	原則として毎計算期末(毎年3月12日および9月12日。休業日の場合は翌営業日。)に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の配当等収益および売買損益(評価損益を含みます。)等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

第21期(信託終了日2015年10月15日)

作成対象期間:2015年9月15日～2015年10月15日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「GS グローバル・マーケット・ストラテジー(野村SMA向け)」は、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用により、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行ってまいりましたが、2015年10月15日に償還いたしました。ここに謹んで運用経過と償還内容をご報告申し上げますとともに、受益者の皆様のご愛顧に対しまして、厚く御礼申し上げます。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
お問合せ先: 03-6437-6000(代表)
受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | www.gsam.co.jp

■設定以来の運用実績

決 算 期	基準価額 (分配落)	税 込 分配金	期 中 騰落率	ベンチマーク		株 式 先物比率	債 券 組入比率	債 券 先物比率	純資産 総 額
				期 中 騰落率	期 中 騰落率				
(設 定 日) 2005年9月30日	円 10,000	円 -	% -	10,000	% -	% -	% -	% -	百万円 1
1期(2006年3月13日)	10,651	2	6.5	10,002	0.02	19.0	70.9	△252.7	962
2期(2006年9月12日)	10,061	0	△5.5	10,012	0.10	△11.1	77.2	△135.5	1,435
3期(2007年3月12日)	8,767	0	△12.9	10,035	0.22	8.5	81.6	△76.9	1,756
4期(2007年9月12日)	8,156	0	△7.0	10,069	0.34	27.0	86.6	111.7	2,326
5期(2008年3月12日)	7,081	0	△13.2	10,107	0.38	7.9	85.6	16.5	1,608
6期(2008年9月12日)	7,357	0	3.9	10,143	0.36	17.2	86.0	94.0	1,080
7期(2009年3月12日)	6,743	0	△8.3	10,180	0.36	10.7	74.8	△20.0	657
8期(2009年9月14日)	7,061	0	4.7	10,194	0.14	23.3	73.4	△46.8	679
9期(2010年3月12日)	7,477	0	5.9	10,202	0.08	35.8	76.7	67.5	600
10期(2010年9月13日)	7,610	0	1.8	10,211	0.08	35.0	73.8	203.7	611
11期(2011年3月14日)	8,174	0	7.4	10,217	0.06	12.5	73.6	△54.5	574
12期(2011年9月12日)	6,939	0	△15.1	10,225	0.07	△20.2	89.8	180.0	392
13期(2012年3月12日)	7,730	0	11.4	10,232	0.07	5.1	74.4	112.6	282
14期(2012年9月12日)	7,295	0	△5.6	10,239	0.07	30.7	84.0	47.4	202
15期(2013年3月12日)	7,741	0	6.1	10,246	0.07	22.7	77.7	20.9	164
16期(2013年9月12日)	7,030	0	△9.2	10,253	0.06	25.7	84.1	△20.2	86
17期(2014年3月12日)	6,551	0	△6.8	10,258	0.05	33.6	82.3	△27.2	69
18期(2014年9月12日)	6,896	0	5.3	10,263	0.05	55.8	78.6	20.7	61
19期(2015年3月12日)	7,374	0	6.9	10,267	0.04	22.6	82.8	18.2	83
20期(2015年9月14日)	7,162	0	△2.9	10,271	0.03	△5.9	97.5	△26.8	0.7
(償 還 日) 21期(2015年10月15日)	(償還価額) 7,142.50		△0.3	10,271	0.00	-	-	-	0.7

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) ベンチマーク（1ヵ月円LIBOR）は、2005年9月30日を10,000として指数化しております。

(注3) 株式先物比率、債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注4) 本ファンドはマザーファンドを組入れますので、株式先物比率、債券組入比率、債券先物比率は、実質比率を記載しております。

■当期中の基準価額と市況推移

年 月 日	基準価額	騰落率	ベンチマーク		株 式 先物比率	債 券 組入比率	債 券 先物比率
			騰落率	騰落率			
(期 首)	円	%		%	%	%	%
2015年9月14日	7,162	-	10,271	-	△5.9	97.5	△26.8
9月末	7,146	△0.2	10,271	0.00	-	-	-
(償 還 日)	(償還価額)						
2015年10月15日	7,142.50	△0.3	10,271	0.00	-	-	-

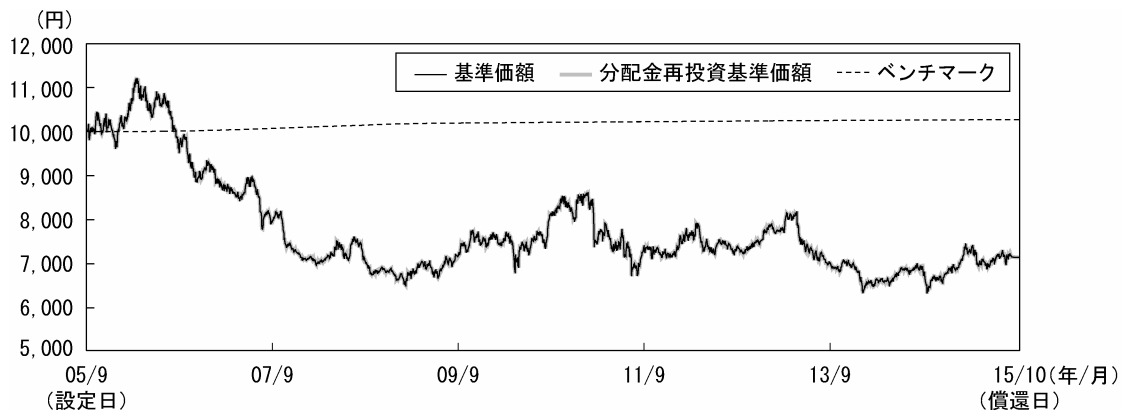
(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) ベンチマーク（1ヵ月円LIBOR）は、2005年9月30日を10,000として指数化しております。

(注3) 株式先物比率、債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注4) 本ファンドはマザーファンドを組入れますので、株式先物比率、債券組入比率、債券先物比率は、実質比率を記載しております。

設定以来の基準価額等の推移について（2005年9月30日～2015年10月15日）



（注1）ベンチマークは1ヵ月円LIBORです。

（注2）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注3）実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

（注4）分配金再投資基準価額、ベンチマークは、設定日（2005年9月30日）の基準価額を起点として指数化しています。

前期までの運用状況（2005年9月30日～2015年9月14日）

【第1期】

（2005年9月30日～2006年3月13日 期末基準価額：10,651円 期中にお支払いした分配金：2円）

本ファンドは期を通じて、GSグローバル・マーケット・ストラテジー・マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第1期においては、債券国別ロング・ショート戦略や株式セクター別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略がプラス寄与となり、全体としてはプラスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、+6.53%となり、ベンチマーク（+0.02%）を上回りました。なお第1期は、世界株式市場は上昇し、世界債券市場は若干下落しました。通貨市場は、対円で米ドル、ユーロともに上昇しました。

【第2期】

（2006年3月14日～2006年9月12日 期末基準価額：10,061円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせる計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第2期においては、資産別ロング・ショート戦略や株式セクター別ロング・ショート戦略がプラス寄与となりましたが、債券国別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となり、全体としてはマイナスとなりました。株式国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略はほぼ中立となりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、-5.54%となり、ベンチマーク（+0.10%）を下回りました。なお

第2期は、世界株式市場、世界債券市場ともに上昇しました。通貨市場は、対円で米ドルは若干下落し、ユーロは上昇しました。

【第3期】

(2006年9月13日～2007年3月12日 期末基準価額：8,767円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第3期においては、株式国別ロング・ショート戦略や債券国別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略、株式セクター別ロング・ショート戦略、通貨別ロング・ショート戦略のすべてがマイナス寄与となり、全体としてもマイナスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、-12.86%となり、ベンチマーク（+0.22%）を下回りました。なお第3期は、世界株式市場は大幅に上昇し、世界債券市場は上昇しました。通貨市場は、対円で米ドルは若干下落し、ユーロは上昇しました。

【第4期】

(2007年3月13日～2007年9月12日 期末基準価額：8,156円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第4期においては、株式国別ロング・ショート戦略や資産別ロング・ショート戦略、株式セクター別ロング・ショート戦略がプラス寄与となりましたが、債券国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となり、全体としてはマイナスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、-6.97%となり、ベンチマーク（+0.34%）を下回りました。なお第4期は、世界株式市場、世界債券市場ともに上昇しました。通貨市場は、対円で米ドルは下落し、ユーロは上昇しました。

【第5期】

(2007年9月13日～2008年3月12日 期末基準価額：7,081円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第5期においては、株式国別ロング・ショート戦略がプラス寄与となりましたが、債券国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となり、全体としてはマイナスとなりました。株式セクター別ロング・ショート戦略はほぼ中立となりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、-13.18%となり、ベンチマーク（+0.38%）を下回りました。なお第5期は、世界株式市場は大幅に下落し、世界債券市場は上昇しました。通貨市場は、対円で米ドルは大幅に下落し、ユーロは若干下落しました。

【第6期】

(2008年3月13日～2008年9月12日 期末基準価額：7,357円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第6期においては、資産別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となりましたが、通貨別ロング・ショート戦略や株式セクター別ロング・ショート戦略、株式国別ロング・ショート戦略がプラス寄与となり、全体としてはプラスとなりました。債券国別ロング・ショート戦略はほぼ中立となりました。結果、当期

のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、+3.90%となり、ベンチマーク（+0.36%）を上回りました。なお第6期は、世界株式市場は下落し、世界債券市場は若干下落しました。通貨市場は、対円で米ドルは上昇し、ユーロは下落しました。

【第7期】

（2008年9月13日～2009年3月12日 期末基準価額：6,743円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第7期においては、債券国別ロング・ショート戦略や株式セクター別ロング・ショート戦略がプラス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となり、全体としてはマイナスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、-8.35%となり、ベンチマーク（+0.36%）を下回りました。なお第7期は、世界株式市場は大幅に下落し、世界債券市場は上昇しました。通貨市場は、対円で米ドルは下落し、ユーロは大幅に下落しました。

【第8期】

（2009年3月13日～2009年9月14日 期末基準価額：7,061円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第8期においては、債券国別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略、株式セクター別ロング・ショート戦略がプラス寄与となり、全体としてはプラスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、+4.72%となり、ベンチマーク（+0.14%）を上回りました。なお第8期は、世界株式市場は大幅に上昇し、世界債券市場は上昇しました。通貨市場は、対円で米ドルは下落し、ユーロは上昇しました。

【第9期】

（2009年9月15日～2010年3月12日 期末基準価額：7,477円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第9期においては、株式セクター別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や債券国別ロング・ショート戦略、通貨別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略がプラス寄与となり、全体としてはプラスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、+5.89%となり、ベンチマーク（+0.08%）を上回りました。なお第9期は、世界株式市場、世界債券市場ともに上昇しました。通貨市場は、対円で米ドルは若干下落し、ユーロは下落しました。

【第10期】

（2010年3月13日～2010年9月13日 期末基準価額：7,610円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第10期においては、債券国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や株式セクター別ロング・ショート戦略がプラス寄与となり、全体としてはプラスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配

金再投資ベース）は、+1.78%となり、ベンチマーク（+0.08%）を上回りました。なお第10期は、世界株式市場は下落し、世界債券市場は上昇しました。通貨市場は、対円で米ドルは下落し、ユーロは大幅に下落しました。

【第11期】

（2010年9月14日～2011年3月14日 期末基準価額：8,174円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第11期においては、株式セクター別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や債券国別ロング・ショート戦略、通貨別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略がプラス寄与となり、全体としてはプラスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、+7.41%となり、ベンチマーク（+0.06%）を上回りました。なお第11期は、世界株式市場は大幅に上昇し、世界債券市場は下落しました。通貨市場は、対円で米ドルは下落し、ユーロは上昇しました。

【第12期】

（2011年3月15日～2011年9月12日 期末基準価額：6,939円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第12期においては、株式セクター別ロング・ショート戦略がプラス寄与となりましたが、債券国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となり、全体としてはマイナスとなりました。株式国別ロング・ショート戦略はほぼ中立となりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、-15.11%となり、ベンチマーク（+0.07%）を下回りました。なお第12期は、世界株式市場は大幅に下落し、世界債券市場は上昇しました。通貨市場は、対円で米ドル、ユーロともに下落しました。

【第13期】

（2011年9月13日～2012年3月12日 期末基準価額：7,730円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第13期においては、株式セクター別ロング・ショート戦略が若干マイナス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や債券国別ロング・ショート戦略、通貨別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略がプラス寄与となり、全体としてはプラスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、+11.40%となり、ベンチマーク（+0.07%）を上回りました。なお第13期は、世界株式市場は大幅に上昇し、世界債券市場は上昇しました。通貨市場は、対円で米ドル、ユーロともに上昇しました。

【第14期】

（2012年3月13日～2012年9月12日 期末基準価額：7,295円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第14期においては、株式国別ロング・ショート戦略や債券国別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略、株式セクター別ロング・ショート戦略がプラス寄与となりましたが、通貨別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となり、全体としてはマイナスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分

配金再投資ベース）は、-5.63%となり、ベンチマーク（+0.07%）を下回りました。なお第14期は、世界株式市場、世界債券市場ともに上昇しました。通貨市場は、対円で米ドル、ユーロともに下落しました。

【第15期】

（2012年9月13日～2013年3月12日 期末基準価額：7,741円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第15期においては、債券国別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となりましたが、通貨別ロング・ショート戦略や資産別ロング・ショート戦略、株式国別ロング・ショート戦略、株式セクター別ロング・ショート戦略がプラス寄与となり、全体としてはプラスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（配金再投資ベース）は、+6.11%となり、ベンチマーク（+0.07%）を上回りました。なお第15期は、世界株式市場は大幅に上昇し、世界債券市場は上昇しました。通貨市場は、対円で米ドル、ユーロともに大幅に上昇しました。

【第16期】

（2013年3月13日～2013年9月12日 期末基準価額：7,030円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第16期においては、資産別ロング・ショート戦略がプラス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や債券国別ロング・ショート戦略、通貨別ロング・ショート戦略、株式セクター別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となり、全体としてはマイナスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（配金再投資ベース）は、-9.18%となり、ベンチマーク（+0.06%）を下回りました。なお第16期は、世界株式市場は上昇し、世界債券市場は下落しました。通貨市場は、対円で米ドル、ユーロともに上昇しました。

【第17期】

（2013年9月13日～2014年3月12日 期末基準価額：6,551円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第17期においては、資産別ロング・ショート戦略がプラス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略、債券国別ロング・ショート戦略、株式セクター別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となり、全体としてはマイナスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（配金再投資ベース）は、-6.81%となり、ベンチマーク（+0.05%）を下回りました。なお第17期は、世界株式市場、世界債券市場ともに上昇しました。通貨市場は、対円で米ドル、ユーロともに上昇しました。

【第18期】

（2014年3月13日～2014年9月12日 期末基準価額：6,896円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第18期においては、株式国別ロング・ショート戦略や株式セクター別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となりましたが、債券国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略、資産別ロング・ショート戦略がプラス寄与となり、全体としてはプラスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（配金再投資ベース）は、+5.27%となり、ベンチマーク（+0.05%）を上回りました。なお第18期は、世界株式市場、世界債券市場ともに上昇しました。通貨市場は、対円で米ドルは上昇し、ユーロは下落しました。

【第19期】

(2014年9月13日～2015年3月12日 期末基準価額：7,374円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第19期においては、資産別ロング・ショート戦略や株式セクター別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や債券国別ロング・ショート戦略、通貨別ロング・ショート戦略がプラス寄与となり、全体としてはプラスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、+6.93%となり、ベンチマーク（+0.04%）を上回りました。なお第19期は、世界株式市場、世界債券市場ともに上昇しました。通貨市場は、対円で米ドルは大幅に上昇し、ユーロは下落しました。

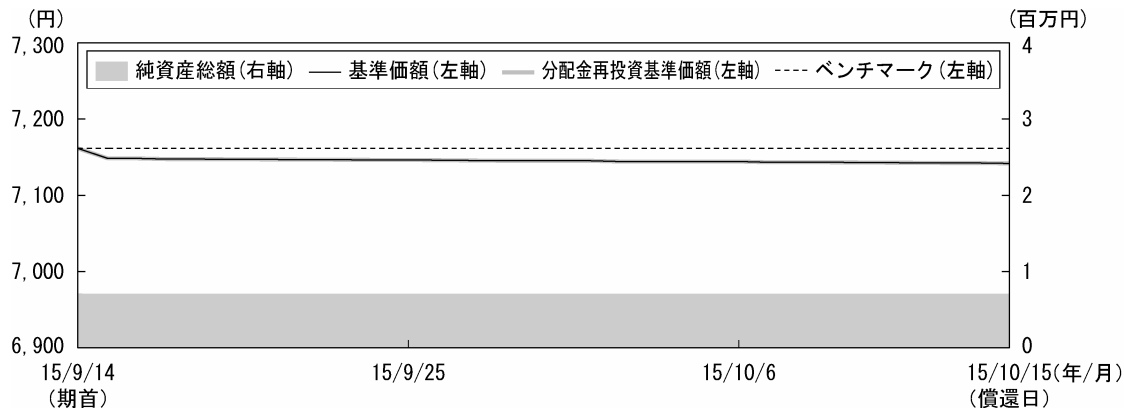
【第20期】

(2015年3月13日～2015年9月14日 期末基準価額：7,162円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは期を通じて、本マザーファンドを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。第20期においては、債券国別ロング・ショート戦略や通貨別ロング・ショート戦略がプラス寄与となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略や資産別ロング・ショート戦略、株式セクター別ロング・ショート戦略がマイナス寄与となり、全体としてはマイナスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、-2.87%となり、ベンチマーク（+0.03%）を下回りました。なお第20期は、世界株式市場は下落し、世界債券市場は若干下落しました。通貨市場は、対円で米ドルは下落し、ユーロは上昇しました。

運用経過

■ 基準価額等の推移について（2015年9月15日～2015年10月15日）



第21期首：7,162円

償還日：7,142円50銭

（当期中にお支払いした分配金：0円）

騰落率：-0.27%（分配金再投資ベース）

（注1）ベンチマークは1ヵ月円LIBORです。

（注2）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注3）実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

（注4）分配金再投資基準価額、ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

■ 基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の7,162円から19円50銭下落し、償還日には7,142円50銭となりました。

上昇要因

運用上、特に記載すべき点はありません。

下落要因

運用上、特に記載すべき点はありません。

■投資環境について

運用上、特に記載すべき点はございません。

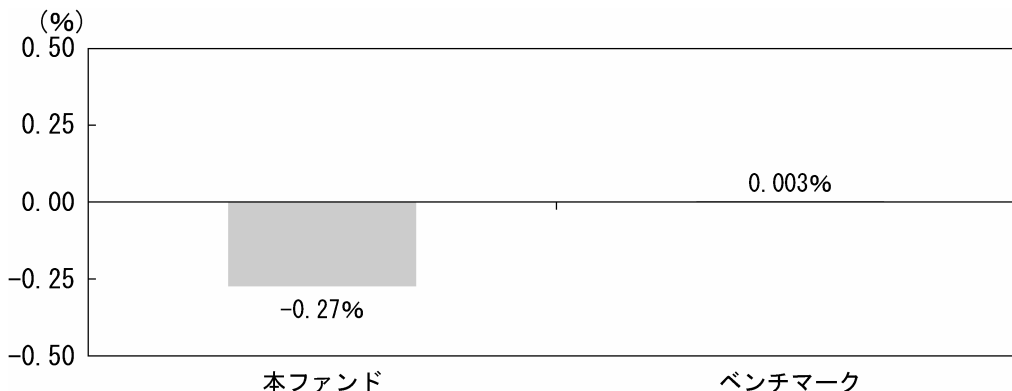
■ポートフォリオについて

<本ファンド>

GSグローバル・マーケット・ストラテジー・マザーファンドの組入れを高位に維持することにより、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標としていますが、期初に2015年10月15日の繰上げ償還に向けて本マザーファンドを解約し、現金化を行いました。

■ベンチマークとの差異について

<当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）>



(注) 基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は-0.27%となり、ベンチマーク（+0.003%）を下回りました。

以上のような運用の結果、信託期間終了時における償還価額は、7,142円50銭となりました。

本ファンドは、信託約款の規定に基づき、2015年10月15日をもちまして繰上償還させていただくことになりました。本ファンドを長らく保有頂きました受益者の皆様のご愛顧に感謝いたします。

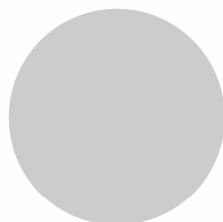
本ファンドのデータ

■本ファンドの組入資産の内容（2015年10月15日現在）

○組入れファンド

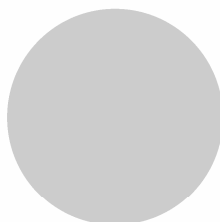
組入れはございません。

○資産別配分



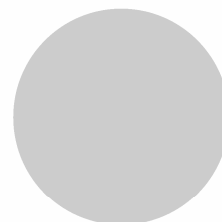
その他現金等
100.0%

○国別配分



日本
100.0%

○通貨別配分



日本円
100.0%

（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

■組入上位ファンドの概要

組入れはございません。

■1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2015年9月15日～2015年10月15日		
	金額	比率	
信託報酬	6円	0.087%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率＋成功報酬（信託報酬のうち成功報酬は0円です。）
（投信会社）	（6）	（0.078）	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価
（販売会社）	（0）	（0.005）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価
（受託会社）	（0）	（0.005）	ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	0	0.002	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	（0）	（0.002）	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用	0	0.002	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（その他）	（0）	（0.002）	法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
合計	6	0.091	
期中の平均基準価額は7,146円です。			

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況(2015年9月15日から2015年10月15日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
GSグローバル・マーケット・ストラテジー・マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	—	—	989	977

■利害関係人との取引状況等(2015年9月15日から2015年10月15日まで)

利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細（2015年10月15日現在）

償還日における有価証券の組入れはありません。

■投資信託財産の構成

2015年10月15日現在

項 目	償 還 日	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	714	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	714	100.0

■資産、負債、元本及び償還価額の状況

項 目	償 還 日
	2015年10月15日
(A) 資 産	714,903円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	714,903
(B) 負 債	653
未 払 信 託 報 酬	640
そ の 他 未 払 費 用	13
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	714,250
元 本	1,000,000
償 還 差 損 金	△285,750
(D) 受 益 権 総 口 数	1,000,000口
1万口当たり償還価額(C/D)	7,142円50銭

■損益の状況

項 目	当 期
	自2015年9月15日 至2015年10月15日
(A) 配 当 等 収 益	5円
受 取 利 息	5
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 1,305
売 買 損	△ 1,305
(C) 信 託 報 酬 等	△ 653
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 1,953
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 101,608
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 182,189
(配 当 等 相 当 額)	(95,864)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 278,053)
償 還 差 損 金 (D + E + F)	△ 285,750

(注1) 損益の状況の中で (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注2) 損益の状況の中で (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(注3) 収益分配金の計算過程において、マザーファンドの配当等収益を繰入れております。

(注4) 期首元本額は1,000,000円、当作成期間中において、追加設定元本額は0円、同解約元本額は0円です。

■投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2005年9月30日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2015年10月15日		資産総額	714,903円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	653円
				純資産総額	714,250円
受益権口数	1,000,000口	1,000,000口	一口	受益権口数	1,000,000口
元本額	1,000,000円	1,000,000円	一元	1万口当たり償還金	7,142.50円

毎計算期末の状況

計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	903,239,077円	962,079,333円	10,651円	2円	0.0200%
第2期	1,426,409,206	1,435,102,156	10,061	0	0.0000
第3期	2,003,886,631	1,756,752,261	8,767	0	0.0000
第4期	2,852,412,938	2,326,301,586	8,156	0	0.0000
第5期	2,271,946,764	1,608,821,966	7,081	0	0.0000
第6期	1,468,183,922	1,080,179,438	7,357	0	0.0000
第7期	975,057,273	657,521,763	6,743	0	0.0000
第8期	962,700,805	679,725,258	7,061	0	0.0000
第9期	802,709,267	600,179,876	7,477	0	0.0000
第10期	803,579,017	611,544,710	7,610	0	0.0000
第11期	703,057,349	574,709,595	8,174	0	0.0000
第12期	565,101,226	392,148,038	6,939	0	0.0000
第13期	365,586,126	282,587,278	7,730	0	0.0000
第14期	278,074,233	202,850,431	7,295	0	0.0000
第15期	212,386,973	164,402,066	7,741	0	0.0000
第16期	123,595,735	86,889,307	7,030	0	0.0000
第17期	106,604,911	69,835,751	6,551	0	0.0000
第18期	89,059,144	61,414,095	6,896	0	0.0000
第19期	113,169,237	83,453,990	7,374	0	0.0000
第20期	1,000,000	716,203	7,162	0	0.0000

■償還金のお知らせ

1万口当たり償還金	7,142円50銭
-----------	-----------

◇個人の受益者については、償還金が個別元本を上回る場合、上回る部分が課税対象となります。

◇税率は、個人の受益者については原則20.315%（所得税15.315%、地方税5%）です。

◇税法が改正された場合等には、上記内容が変更になる場合もあります。

GS グローバル・ マーケット・ストラテジー・ マザーファンド

親投資信託

第11期(決算日2015年3月12日)

作成対象期間: 2014年3月13日～2015年3月12日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
法令・諸規則に基づき、親投資信託(マザーファンド)の
期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げ
ます。

■本ファンドの仕組みは次のとおりです。

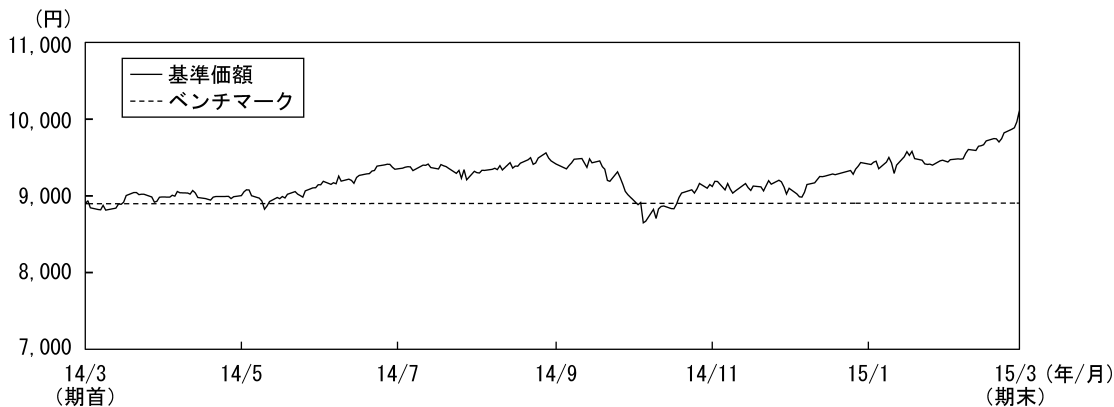
商品分類	親投資信託
信託期間	原則として無期限
運用方針	計量モデルにより、日本を含む世界各国の株式・債券・円短期金融商品等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせ、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。
主要投資対象	日本を含む世界の株式・債券および円短期金融商品
組入制限	①株式への投資割合には制限を設けません。 ②外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
お問合せ先: 03-6437-6000(代表)
受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | www.gsam.co.jp

運用経過

■基準価額等の推移について（2014年3月13日～2015年3月12日）



(注1) ベンチマークは1ヵ月円LIBORです。

(注2) ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

■基準価額の変動要因

GSグローバル・マーケット・ストラテジー・マザーファンド（以下、「本ファンド」といいます。）の基準価額は、期首の8,897円から1,221円上昇し、期末には10,118円となりました。

上昇要因

株式国別ロング・ショート戦略、通貨別ロング・ショート戦略、債券国別ロング・ショート戦略、および資産別ロング・ショート戦略によるプラス寄与などが、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

株式セクター別ロング・ショート戦略によるマイナス寄与などが、基準価額の下落要因となりました。

■投資環境について

<株式市場>

世界の株式市場（現地通貨ベース）は上昇しました。期初から緩やかながら概ね上昇基調で推移しましたが、期中盤には、東欧や中東情勢を巡る地政学リスクの高まりや、欧州経済の先行き不透明感などが懸念され下落しました。その後は、原油価格の下落などを背景に投資家心理が悪化し、一時的に下落する局面も見られたものの、米国を中心に良好な経済指標や堅調な企業業績などを背景に概ね上昇基調となり、期を通じては上昇する結果となりました。

<債券市場>

当期は、主要先進国の10年国債の利回りが総じて低下（価格は上昇）しました。期の前半は、東欧や中東情勢を巡る地政学リスクの高まりや、IMF（国際通貨基金）が世界の経済成長見通しを下方修正したことなどを背景に、投資家のリスク回避姿勢が強まり、安全資産とされる国債を買う動きが見られました。また、欧州では低インフレが継続し追加金融緩和観測が高まったことも利回り低下要因となりました。期の後半も、ギリシャの政治的混乱や、原油価格の下落に伴い低インフレが継続するとの見方などを背景に利回りは低下基調が継続しました。ただし、期末にかけては、米国の堅調な雇用関連指標などを背景に利上げ観測が高まり、利回りは米国を中心に上昇しました。

<外国為替市場>

外国為替市場において米ドルなどが対円で上昇した一方、ユーロなどは下落する結果となりました。米ドルは、期の前半は対円で概ねレンジ内での推移となりました。期の後半は、米国において堅調な経済指標が発表され、FRB（米連邦準備制度理事会）による早期利上げ観測が高まったことなどを背景に米ドルが買われ、対円で大幅な上昇となりました。特に、日本銀行が予想外の追加金融緩和に踏み切ったことを受け、10月末から11月にかけて円安米ドル高が進行しました。ユーロは対円で、期初から10月までは概ねレンジ内での推移となりました。その後は、10月末に日本銀行が予想外の追加金融緩和に踏み切ったことなどを背景に上昇する局面があったものの、期の終盤はECB（欧州中央銀行）による量的緩和実施の決定やギリシャの政局不安などを背景にユーロ安が進行し、結局前期末より対円で下落して期を終えました。

■ポートフォリオについて

本ファンドは、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが、世界の様々な指標をコンピュータ・モデルで分析し、先進国の株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせて、高水準のリターンを目指す運用を行いました。

アクティブ運用の経過

当社のアクティブな投資判断に基づいて、この運用期間中に投資配分比率は機動的に変更しました。

①株式国別ロング・ショート戦略

株式国別ロング・ショート戦略においては、世界の株式市場を評価しながら、積極的な配分変更を行いました。当期の株式国別ロング・ショート戦略は、本ファンドのパフォーマンスにプラス要因となったものと推定しています。オーストラリアに対して期の後半に弱気としたことや、スイスに対して期を通じて概ね弱気とし、特に終盤にかけて弱気度合いを強めたことなどが主なマイナス要因となりましたが、日本に対して期を通じて強気としたことや、ドイツに対して期を通じて概ね強気とし、特に終盤にかけて強気度合いを強めたことなどが主なプラス要因となり、全体としてはプラスとなりました。

②債券国別ロング・ショート戦略

債券国別ロング・ショート戦略においても積極的に配分変更を行いました。当期の債券国別ロング・ショート戦略は、本ファンドのパフォーマンスにプラス要因となったものと推定しています。日本に対して期を通じて概ね弱気とし、特に11月から12月にかけて弱気度合いを強めたことなどがマイナス要因となりましたが、ドイツに対して期を通じて概ね強気としたことなどがプラス要因となり、全体としてはプラスとなりました。

③通貨別ロング・ショート戦略

通貨別ロング・ショート戦略は、株式や債券の国別ロング・ショート戦略とは独立して行います。例えば、米国の株式について強気の見通しであっても、日本円に対して米ドルに弱気の見通しであれば、米国株式にはロングすると同時に、米ドルをショートするということとなります。当期の通貨別ロング・ショート戦略は、本ファンドの

パフォーマンスにプラス要因となったものと推定しています。ニュージーランド・ドルに対して期を通じて概ね強気とし、特に12月から1月にかけて強気度合いを強めたことや、ユーロに対して期を通じて概ね弱気とし、特に中盤に弱気度合いを強めたことなどがマイナス要因となりましたが、米ドルに対して期の後半に強気としたことや、スウェーデン・クローナに対して期を通じて概ね弱気としたことなどが主なプラス要因となり、全体としてはプラスとなりました。

④資産別ロング・ショート戦略

当期の株式、債券と円キャッシュ間の資産別ロング・ショート戦略は、本ファンドのパフォーマンスにプラス要因となったものと推定しています。世界株式に対して期を通じて強気とし世界債券に対しては概ね強気としたことがいずれもプラス要因となり、全体としてはプラスとなりました。

⑤株式セクター別ロング・ショート戦略

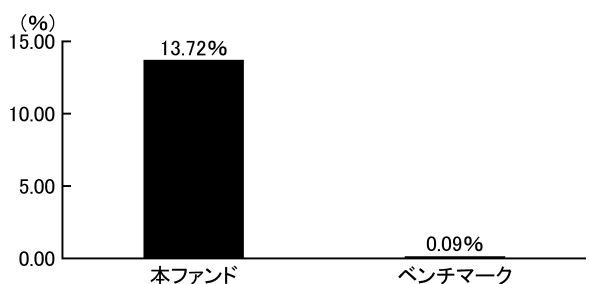
当期の株式セクター別ロング・ショート戦略は、本ファンドのパフォーマンスにマイナス要因となったものと推定しています。一般優良株／テクノロジー株間でテクノロジー株に対して期を通じて概ね若干強気としていたことはほぼ中立要因となりましたが、大型株／小型株間で小型株に対して期を通じて概ね強気としていたことがマイナス要因となり、全体としてマイナスとなりました。

■ベンチマークとの差異について

当期の本ファンドのパフォーマンスは+13.72%となり、ベンチマーク (+0.09%) を上回りました。

当期においては、株式セクター別ロング・ショート戦略がマイナス要因となりましたが、株式国別ロング・ショート戦略、通貨別ロング・ショート戦略、債券国別ロング・ショート戦略、および資産別ロング・ショート戦略がプラス要因となり、全体としてプラスとなりました。

<当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）>



今後の運用方針について

今後も引き続き、株式、債券、通貨等を投資対象とした複数のロング・ショート戦略を組み合わせた計量運用を実施しながら運用を行います。

現在のポートフォリオ

①株式国別ロング・ショート戦略

株式国別ロング・ショート戦略においては、日本やドイツに対して強気の見通しとする一方で、米国やスイスに対して弱気の見通しとしています。日本とドイツについては、いずれも価格水準が割安でモメンタム（価格の方向性・勢い）も良いことから強気の見通しとしています。一方、米国については、価格水準が割高で企業を取り巻く環境も良好でないことから弱気の見通しとしています。また、スイスについては、モメンタムが悪く投資味も薄いことから弱気の見通しとしています。

②債券国別ロング・ショート戦略

債券国別ロング・ショート戦略においては、英国や日本に対して強気の見通しとする一方、ドイツや米国に対して弱気の見通しとしています。英国と日本については、いずれもモメンタムが良いことから強気の見通しとしています。一方、モメンタムが悪く金利動向などのマクロの観点での評価も低いドイツや、モメンタムが悪い米国については弱気の見通しとしています。

②通貨別ロング・ショート戦略

通貨別ロング・ショート戦略においては、米ドルや日本円に対して強気の見通しとする一方で、スイス・フランやカナダ・ドルに対して弱気の見通しとしています。米ドルについては、モメンタムが良いことから強気の見通しとしています。日本円については、価格水準が割安でマクロの観点での評価も高いことから強気の見通しとしています。一方、スイス・フランについては、マクロの観点での評価が低いことから弱気の見通しとしています。また、カナダ・ドルについては、資金フローの観点での評価が低いことから弱気の見通しとしています。

④資産別ロング・ショート戦略

資産別ロング・ショート戦略においては、世界株式と世界債券については、いずれもモメンタムが良好であることから強気の見通しとしています。

⑤株式セクター別ロング・ショート戦略

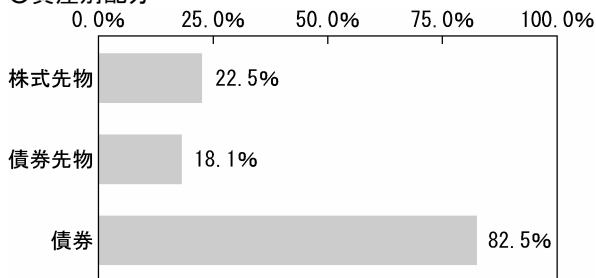
株式セクター別ロング・ショート戦略においては、大型株／小型株間では、モメンタムが良い小型株に対して若干の強気としています。一方、一般優良株／テクノロジー株間では、モメンタムが良いテクノロジー株に対して若干の強気としています。

(上記見通しは2015年3月12日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。)

本ファンドのデータ

■本ファンドの組入資産の内容 (2015年3月12日現在)

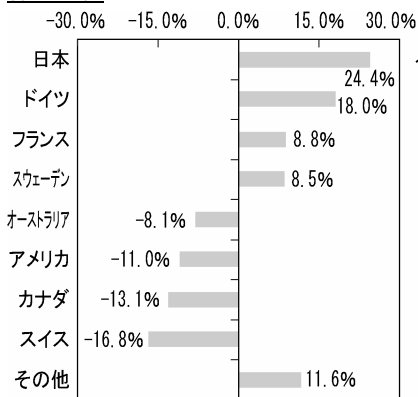
○資産別配分



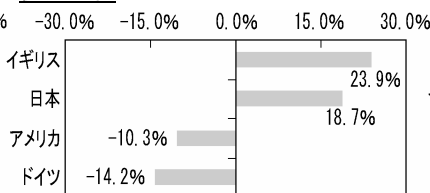
*本ファンドは主に先物取引を利用してポジションを構築しています。なお、債券の比率は、余資運用として投資している米国の短期債などの組入れによるものです。

○国別配分

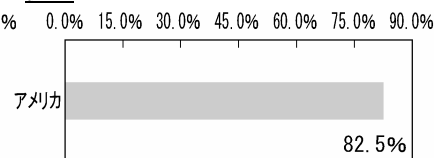
株式先物



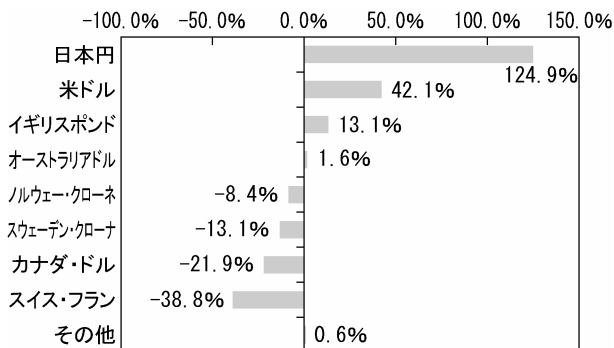
債券先物



債券



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

(組入銘柄数：21銘柄)

	銘柄	資産	国	比率
1	TREASURY BILL 0% 2015/5/14	債券	アメリカ	82.5%
2	東証株価指数先物 1506	株式先物	日本	24.4%
3	GILT 1506	債券先物	イギリス	23.9%
4	長期国債標準物先物 1506	債券先物	日本	18.7%
5	DAX DTB 1503	株式先物	ドイツ	18.0%
6	SWISS MKT 1503	株式先物	スイス	-16.8%
7	BUND10Y 1506	債券先物	ドイツ	-14.2%
8	S&P/TSE 60 1503	株式先物	カナダ	-13.1%
9	S&P500 EMINI 1503	株式先物	アメリカ	-11.4%
10	CBT 10Y 1506	債券先物	アメリカ	-10.3%

* 比率は絶対値の大きさの順です。売建ての取引の場合はマイナスの比率が表示されます。

(注) 上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

■最近5期の運用実績

決算期	基準価額		ベンチマーク		株式 先物比率	債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
		期中 騰落率		期中 騰落率				
	円	%		%	%	%	%	百万円
7期(2011年3月14日)	10,751	10.5	10,221	0.15	12.5	73.2	△54.2	11,342
8期(2012年3月12日)	10,273	△4.4	10,236	0.15	5.1	73.9	111.9	7,325
9期(2013年3月12日)	10,396	1.2	10,250	0.14	22.6	77.3	20.8	5,532
10期(2014年3月12日)	8,897	△14.4	10,262	0.12	33.4	81.8	△27.1	3,503
11期(2015年3月12日)	10,118	13.7	10,271	0.09	22.5	82.5	18.1	3,147

(注1) ベンチマーク(1ヵ月円LIBOR)は、2004年10月28日を10,000として指数化しております。

(注2) 株式先物比率、債券先物比率は買建比率-売建比率。

■当期中の基準価額と市況推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		株式 先物比率	債券 組入比率	債券 先物比率
		騰落率		騰落率			
(期首) 2014年3月12日	円	%		%	%	%	%
	8,897	—	10,262	—	33.4	81.8	△27.1
3月末	9,044	1.7	10,263	0.01	38.1	83.0	△2.2
4月末	8,945	0.5	10,263	0.01	28.6	84.6	23.9
5月末	9,020	1.4	10,264	0.02	48.5	74.3	52.4
6月末	9,286	4.4	10,265	0.03	41.8	72.7	19.4
7月末	9,381	5.4	10,266	0.04	37.5	74.1	20.2
8月末	9,426	5.9	10,267	0.05	35.5	74.7	20.5
9月末	9,381	5.4	10,268	0.05	57.6	81.2	21.2
10月末	9,037	1.6	10,268	0.06	15.4	84.8	13.7
11月末	9,128	2.6	10,269	0.07	37.4	80.6	△29.3
12月末	9,276	4.3	10,270	0.07	26.1	83.2	19.9
2015年1月末	9,485	6.6	10,270	0.08	16.1	80.9	18.4
2月末	9,716	9.2	10,271	0.09	29.5	80.8	21.3
(期末) 2015年3月12日							
	10,118	13.7	10,271	0.09	22.5	82.5	18.1

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) ベンチマーク(1ヵ月円LIBOR)は、2004年10月28日を10,000として指数化しております。

(注3) 株式先物比率、債券先物比率は買建比率-売建比率。

■1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2014年3月13日～2015年3月12日		
	金額	比率	
売買委託手数料 (先物・オプション) (プライムブローカー)	10円 (9) (1)	0.106% (0.092) (0.014)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用) (その他)	1 (0) (1)	0.008 (0.002) (0.006)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 証拠金利息の調整金額、支払外国税等
合計	11	0.114	
期中の平均基準価額は9,260円です。			

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況(2014年3月13日から2015年3月12日まで)

(1) 公社債

			買付額	売付額			
			千米ドル	千米ドル			
外	ア	メ	リ	カ	国債証券	70,839	3,364 (46,115)
国					特殊債券	21,358	3,085 (46,116)

(注1) 金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(2) 先物取引の銘柄別取引状況

			買 建		売 建	
			新 規 買付額	決 済 額	新 規 売付額	決 済 額
			百万円	百万円	百万円	百万円
国	株式先物取引	TOPIX	4,860	5,222	—	—
内	債券先物取引	10年国債標準物	587	—	3,223	4,108
外	株式先物取引	DJIA MINI e-CBOT	74	182	114	107
		S&P 500 EMINI	1,805	2,094	1,289	1,051
		RUSSELL MINI	586	585	47	55
		NASDAQ 100 EMINI	71	66	60	148
		S&P/TSE 60	1,721	1,926	665	267
		SPI 200	1,079	1,302	2,390	2,187
		FTSE 100	653	659	277	267
		SWISS MKT	128	134	1,897	1,802
		HANG SENG	4,691	5,405	—	—
		MSCI SING	5	11	—	—
		OMXS 30	1,711	1,461	2,302	2,729
		AEX	2,386	2,322	743	754
		CAC 40	492	223	3,934	4,183
		DAX DTB	2,409	1,867	126	135
		IBEX 35	536	534	3,294	3,282
		S&P/MIB	703	533	769	789
国	債券先物取引	米国国債先物10年	—	—	655	335
		英国国債先物10年	2,863	2,981	—	—
		ドイツ国債先物10年	3,862	3,872	446	953

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 外国の取引金額は、各月中の取引額を当該月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計です。

■利害関係人との取引状況等(2014年3月13日から2015年3月12日まで)

利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細(2015年3月12日現在)

(1) 公社債

A 債券種類別開示

外国(外貨建)公社債

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格 以 下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
	千米ドル	千米ドル	千円	%	%	%	%	%
ア メ リ カ	21,362	21,361	2,596,055	82.5	—	—	—	82.5
合 計	21,362	21,361	2,596,055	82.5	—	—	—	82.5

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

B 個別銘柄開示

外国(外貨建)公社債

種 類	銘 柄 名	当 期 末				
		利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日
				外貨建金額	邦貨換算金額	
国 債 証 券	(アメリカ) TREASURY BILL 0%	%	千米ドル	千米ドル	千円	
		—	21,362	21,361	2,596,055	2015/5/14
	合 計	—	—	—	2,596,055	—

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(2) 先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別		当 期 末	
		買 建 額	売 建 額
国内	TOPIX	769	—
	10年国債標準物	589	—
外国	AEX	176	—
	CAC 40	275	—
	DAX DTB	567	—
	DJIA MINI e-CBOT	—	10
	S&P 500 EMINI	—	359
	FTSE 100	—	48
	HANG SENG	129	—
	IBEX 35	—	127
	RUSSELL MINI	14	—
	NASDAQ 100 EMINI	10	—
	OMXS 30	268	—
	SWISS MKT	—	527
	S&P/TSE 60	—	410
	SPI 200	—	254
国内	S&P/MIB	234	—
	ドイツ国債先物10年	—	447
	米国国債先物10年	—	324
	英国国債先物10年	751	—

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) —印は組入れなし。

■ 投資信託財産の構成

2015年3月12日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 2,596,055	% 66.8
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,289,749	33.2
投 資 信 託 財 産 総 額	3,885,804	100.0

(注1) 当期末における外貨建純資産 (2,713,534千円) の投資信託財産総額 (3,885,804千円) に対する比率は69.8%です。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。なお決算日における邦貨換算レートは1米ドル=121.53円、1カナダドル=95.40円、1ユーロ=128.20円、1英ポンド=181.49円、1スイスフラン=120.55円、1スウェーデンクローナ=14.09円、1オーストラリアドル=92.47円、1香港ドル=15.65円、1シンガポールドル=87.67円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	当 期 末
	2015年3月12日
(A) 資 産	11,350,558,844円
コール・ローン等	390,567,766
公社債(評価額)	2,596,055,710
未収入金	8,200,421,306
未収利息	305
前払金	64,703
差入委託証拠金	163,449,054
(B) 負 債	8,202,814,481
前受金	1,727,708
未払金	8,075,502,351
未払解約金	125,584,422
(C) 純資産総額(A-B)	3,147,744,363
元 本	3,111,026,213
次期繰越損益金	36,718,150
(D) 受 益 権 総 口 数	3,111,026,213口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,118円

■損益の状況

項 目	当 期
	自2014年3月13日 至2015年3月12日
(A) 配 当 等 収 益	1,187,324円
受 取 利 息	1,187,324
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	148,771,388
売 買 益	2,523,482,170
売 買 損	△ 2,374,710,782
(C) 先 物 取 引 等 取 引 損 益	262,685,201
取 引 益	1,048,287,860
取 引 損	△ 785,602,659
(D) 信 託 報 酬 等	△ 784,420
(E) 当 期 損 益 金 (A + B + C + D)	411,859,493
(F) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 434,265,936
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 2,969,751
(H) 解 約 差 損 益 金	62,094,344
(I) 計 (E + F + G + H)	36,718,150
次 期 繰 越 損 益 金 (I)	36,718,150

(注1) 損益の状況の中で (B) 有価証券売買損益および (C) 先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で (G) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で (H) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。

(注4) 期首元本額は3,937,324,821円、当作成期間中において、追加設定元本額は30,878,242円、同解約元本額は857,176,850円です。

(注5) 元本の内訳

G S グローバル・マーケット・ストラテジー(年1回決算型)	1,652,700,804円
G S グローバル・マーケット・ストラテジー(年2回決算型)	1,375,468,947円
G S グローバル・マーケット・ストラテジー(野村SMA向け)	82,856,462円

〈お知らせ〉

約款変更について

・一般社団法人 投資信託協会の「デリバティブ取引等に係る投資制限に関するガイドライン」に従い、デリバティブ取引等の管理方法について定めるため、所要の変更を行いました。